

SANITARY NAPKIN

Patent number: JP8117277

Publication date: 1996-05-14

Inventor: WADA ICHIRO; KONDO HIDEKI; KINOSHITA MASATAKA

Applicant: UNI CHARM CORP

Classification:

- **International:** A61F13/15; A61F13/20; A61F13/472; A61F13/511;
A61F13/539; A61F13/15; A61F13/20; (IPC1-7):
A61F13/15

- **european:**

Application number: JP19940263963 19941027

Priority number(s): JP19940263963 19941027

Also published as:

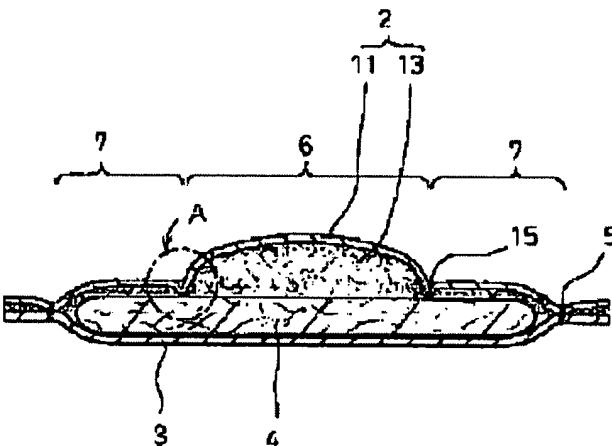
AU701800 (B2)

[Report a data error here](#)

Abstract of JP8117277

PURPOSE: To alleviate a feeling of physical disorder in the use of a sanitary napkin for persons of middle or advanced age.

CONSTITUTION: The surface sheet 2 of a sanitary napkin is formed out of an upper layer sheet 11 made of either the nonwoven fabric of thermoplastic synthetic fiber or a porous and thermoplastic synthetic resin film, and a lower layer sheet 13 made of the nonwoven fabric of thermoplastic synthetic fiber having a higher hydrophilic property. The sheets 11 and 13 are intermittently fused and integrated with each other at an area 7 other than the center area 6 of the napkin via a thermal embossing process. In addition, the area 6 is formed to be higher than the area 7 and have more elasticity.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-117277

(43)公開日 平成8年(1996)5月14日

(51)Int.Cl.⁶

A 6 1 F 13/15

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 6 1 F 13/ 18

3 1 0 Z

3 3 1

3 4 0

審査請求 未請求 請求項の数 2 OL (全 4 頁)

(21)出願番号

特願平6-263963

(22)出願日

平成6年(1994)10月27日

(71)出願人 000115108

ユニ・チャーム株式会社

愛媛県川之江市金生町下分182番地

(72)発明者 和田 一郎

愛媛県川之江市金田町半田乙385-1-3

(72)発明者 近藤 秀樹

愛媛県川之江市金田町半田乙385-1-3

(72)発明者 木下 正隆

愛媛県川之江市川之江町2405-1

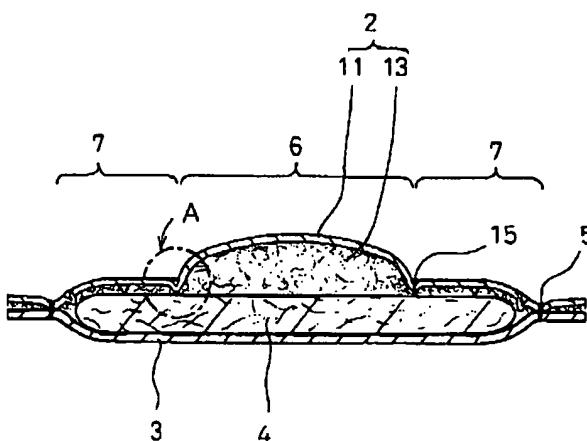
(74)代理人 弁理士 白浜 吉治

(54)【発明の名称】 生理用ナプキン

(57)【要約】

【目的】 中高生理用ナプキンの着用違和感を軽減する。

【構成】 生理用ナプキン1の表面シート2を熱可塑性合成繊維不織布および開孔を有する熱可塑性合成樹脂フィルムのいずれかからなる上層シート11と、上層シートよりも親水性の強い熱可塑性合成繊維不織布からなる下層シート13とによって構成する。上下層シート11、13は、ナプキン1の中央域6を除くその他の域7において熱エンボス加工により間欠的に融着一体化し、中央域6を他の域7よりも高くかつ柔軟性に富むように形成する。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】透液性表面シートと不透液性裏面シートとの間に吸液性コアが介在してなる生理用ナプキンにおいて、

前記表面シートが熱可塑性合成樹脂素材からなる上層シートと、前記上層シートよりも親水性の強い熱可塑性合成繊維不織布からなる下層シートとによって構成され、前記上下層が前記ナプキンの中央域を除いて間欠的に施した熱エンボス加工により融着一体化されるとともに、前記中央域が他の域よりも高くかつ柔軟性に富むように形成されていることを特徴とする前記ナプキン。

【請求項2】前記熱可塑性合成樹脂素材が繊維不織布および開孔を有するフィルムのいずれかからなる請求項1に記載のナプキン。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、生理用ナプキンに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、生理用ナプキンの少なくとも前後左右の中央部をその周辺部分より特に厚くした、いわゆる中高のナプキンは公知である。例えば、実開昭58-13227号公報には、下部吸収材の上面中央部にこれよりも細幅厚層の上部吸収材を重ねて中高のナプキンとする技術が開示されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】前記公知技術のごとき構成の中高のナプキンでは、その中高の部分が、女性局部の陰唇に当接するが、ナプキンの他の部分とほぼ同剛性であるため、局部に強い違和感を与えるばかりでなく、陰唇に密着せず、中高に形成した効果が充分に發揮されず、経血が漏れる。

【0004】そこで、この発明は、ナプキンの中高域をその周辺域よりも柔軟性に富むように形成することによって前記問題を解決することを課題にしている。

【0005】

【課題を解決するための手段】この発明が前記課題を解決するために手段とするところは、以下のとおりである。

【0006】この発明が前提とするのは、透液性表面シートと不透液性裏面シートとの間に吸液性コアが介在してなる生理用ナプキンである。

【0007】かかる前提において、前記表面シートが熱可塑性合成材料からなる上層シートと、その上層シートよりも親水性の強い熱可塑性合成繊維不織布からなる下層シートとによって構成され、それら上下層シートが前記ナプキン中央域を除いて間欠的に施した熱エンボス加工により融着一体化されるとともに、前記中央域が他の域よりも高くかつ柔軟性に富むように形成されていることがこの発明の特徴である。

2

【0008】

【作用】かかる生理用ナプキンの表面シートは、中央部（中高の部分）が女性局部の陰唇に柔らかく密着し、経血がその吸収面と女性局部の肌との間から漏れるのを有效地に防止する。

【0009】

【実施例】この発明に係る生理用ナプキンの詳細を添付の図面を参照して説明すると、以下のとおりである。

【0010】図1、2は、生理用ナプキン1の部分破断斜視図と、そのII-II線断面図である。ナプキン1は、透液性表面シート2と、不透液性裏面シート3と、それら両シート2、3間に介在する吸液性コア4とからなり、表裏面シート2、3は、コア4の周縁から延出する部分がシールライン5で接合している。

【0011】表面シート2は、ナプキン1の前後および左右の各側部間に位置する中央域6が周辺域7よりも盛り上がっている。裏面シート3は、熱可塑性合成樹脂フィルムからなり、コア4はパルプを賦型したものであって、各々パルプからなり厚みが一様である。かく構成されたナプキン1は、いわゆる中高ナプキンの外観を呈している。

【0012】図3は、図2の部分Aにおける表面シート2の拡大断面図である。表面シート2は、微細な透液性開孔10を有する熱可塑性合成樹脂フィルム11からなる上層シートと、熱可塑性合成繊維不織布13からなる下層シートとによって構成され、上下層シートは、周辺域7に対して施した熱エンボス加工による間欠的な融着部15において接合し、一体化している。不織布13は、周辺域7で圧縮された状態にあり、熱エンボス加工を施していない中央域6は、その加工を施してある周辺域7に比べて柔軟性に富んでいる。また熱可塑性合成繊維からなる不織布13には、親水化処理を施してその親水性をフィルム11より強く、コア4よりも弱くしてある。したがって、かかる表面シート2を使用したナプキン1では、中高な中央域6が女性局部の陰裂部を含む陰唇によく密着して経血の横漏れを防止し、その中央域6に排泄された経血は、表面シート2を中央域6において透過してコア4に吸収される。

【0013】図4は、図1と異なる態様のナプキン1の平面図である。このナプキン1では、左右両側部分のみ熱エンボス加工を施すことにより、中高な中央域6が前後両端間に延びている。

【0014】この発明において、表面シート2の上層に使用する開孔を有するフィルム11としては、特開平4-89054号公報等に開示されたものを利用することができます。また、フィルム11に代えて熱可塑性合成繊維からなる不織布を利用することができる。ただし、その不織布は下層に使用する不織布13よりも親水性を弱くして、経血が上層から下層へ速やかに移行できるようになることが好ましい。なお、これらの不織布には繊維

3

が互いに機械的に交絡したものや、熱融着して交絡したもの、ホットメルト接着剤などの接着剤を介して交絡したものなどを使用することができる。コア4は、粉碎バルブに高吸水性ポリマーを混合したものでもよい。

【0015】

【発明の効果】この発明における生理用ナプキンは、表面シートを中高に形成するとともに、その中高域をその周辺域よりも柔軟性に富むように形成してあるから、女性局部に違和感を与えることがないばかりでなく、陰裂部を含む陰唇によく密着し経血の漏れを防ぐことができる。また表面シートを構成する上下層シートが融着一体化しているから、ナプキンの着用中、それらが経血の吸収性を低下させる層間剥離や不規則な皺などを生じることがない。

4

【図面の簡単な説明】

【図1】生理用ナプキンの部分破断斜視図。

【図2】図1のI—I—I—I線断面図。

【図3】表面シートの部分拡大断面図。

【図4】図1と異なる態様の生理用ナプキンの平面図。

【符号の説明】

1 生理用ナプキン

2 表面シート

3 裏面シート

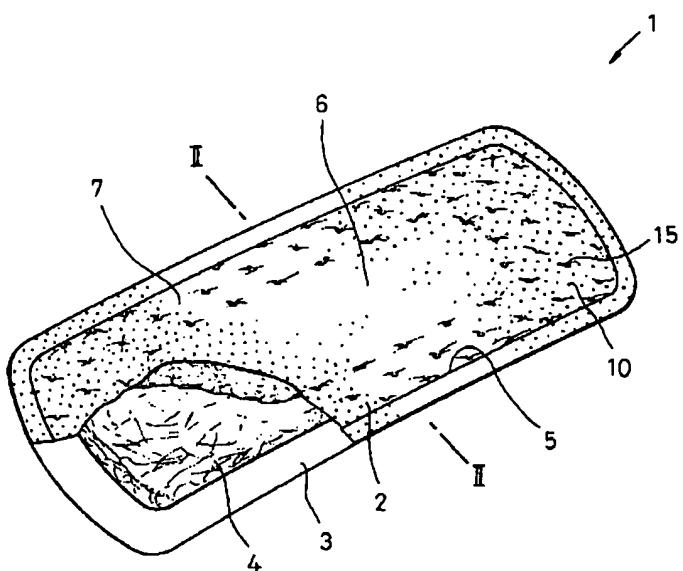
10 中央域

4 コア

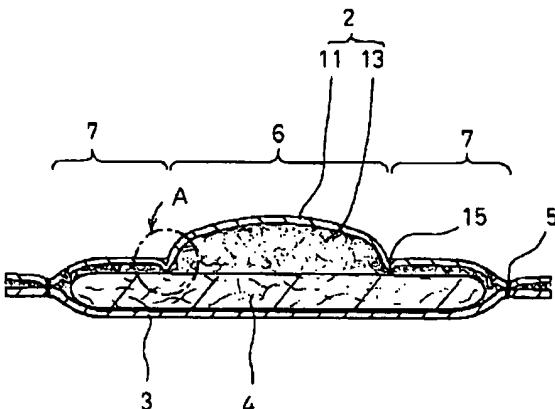
6 上層シート(フィルム)

11 下層シート(不織布)

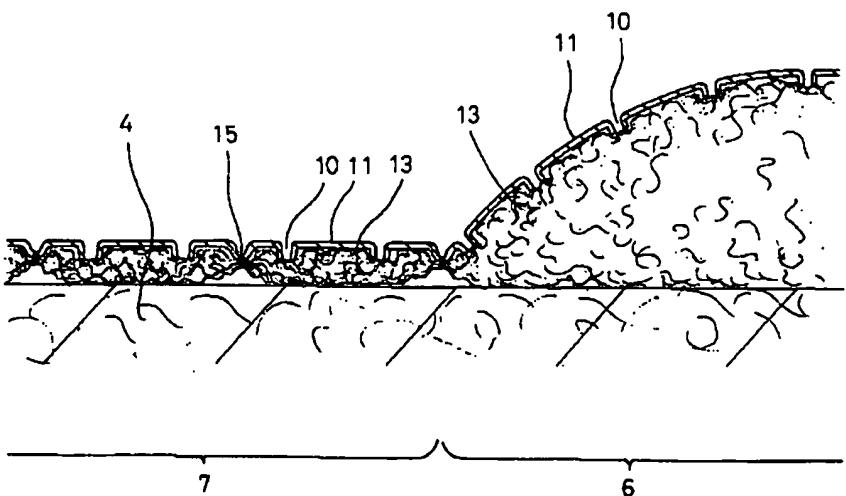
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

